

〈本校男子〉

【実技の状況について】

- 握力（筋力）
→全国平均を5ポイント以上と大きく上回っている。
- 上体起こし（筋パワー（筋力×スピード）、持久力）
→全国平均を全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。
- 長座体前屈（柔軟性）
→全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。
- 反復横跳び（俊敏性）
→全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。
- 20m シャトルラン（全身持久力）
→全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。
- 50m 走（**疾走能力**）
→全国平均の5ポイント以下と大きく下回っている。
- 立ち幅跳び（筋パワー、**跳躍能力**）
→全国平均の3.4ポイント下回っている。
- ※札幌市はほぼ同程度
- ソフトボール投げ（巧緻性、投球能力）
→全国平均を2.5ポイント下回っている。

【児童生徒質問について】

- 運動・スポーツが好き、やや好き
→92.3%（全国平均93.0%）
- 体育の時間は楽しい、やや楽しい
→94.8%（全国平均94.6%）
- 体育の時間を除く1週間の総運動時間が60分未満の児童
→13.2%（全国平均14.4%）
- 朝食を毎日必ず食べる
→69.2%（全国平均83.0%）
- 1日（平日）に2時間以上テレビやゲーム機、スマートフォン等の画面を見ている
→64.4%（全国平均57.5%）

〈本校女子〉

【実技の状況について】

- 握力（筋力）
→全国平均を9.8ポイントと大きく上回っている。
- 上体起こし（筋パワー（筋力×スピード）、持久力）
→全国平均を全国平均とほぼ同程度である。
- 長座体前屈（柔軟性）
→全国平均とほぼ同程度であるが、上回っている。
- 反復横跳び（俊敏性）
→全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。
- 20m シャトルラン（全身持久力）
→全国平均と4.8ポイント以下と、大きく下回っている。
- 50m 走（**疾走能力**）
→全国平均の3.7ポイント以下と下回っている。
- 立ち幅跳び（筋パワー、**跳躍能力**）
→全国平均の6.1ポイント以下と大きく下回っている。
- ※札幌市はほぼ同程度
- ソフトボール投げ（巧緻性、投球能力）
→全国平均とほぼ同程度。

【児童生徒質問について】

- 運動・スポーツが好き、やや好き
→90.9%（全国平均86.4%）
- 体育の時間は楽しい、やや楽しい
→87.9%（全国平均90.7%）
- 体育の時間を除く1週間の総運動時間が60分未満の児童
→12.1%（全国平均26.9%）
- 朝食を毎日必ず食べる
→81.8%（全国平均83.4%）
- 1日（平日）に2時間以上テレビやゲーム機、スマートフォン等の画面を見ている
→50.0%（全国平均72.3%）

今回の調査結果の方向

【実技の状況について】

- 全般的に全国平均を下回っているが、男女ともに経年変化で捉えると、**全体的に改善のきざしが見られる。**
- 特に、以下の種目で全国平均との開きがおおきいことが、課題として挙げられる。
 - ・男子→50m 走（**疾走能力**）、立ち幅跳び（筋パワー、**跳躍能力**）、ソフトボール投げ（巧緻性、投球能力）、ソフトボール投げ（巧緻性、投球能力）
 - ・女子→0m シャトルラン（全身持久力）、50m 走（**疾走能力**）、立ち幅跳び（筋パワー、**跳躍能力**）、20m シャトルラン（全身持久力）
- ※筋パワーについては全国平均以上の能力が認められる。
- ※疾走能力や跳躍運動が全国平均を下回っていることについては、冬季間の屋外での「走・跳の運動」に関連する運動の機会が限定的になってしまうことが考えられる。しかしながら、**札幌市のデータと比較すると、本校の子どもは跳躍能力だけが下回っている。**

【児童生徒質問について】

- 「運動・スポーツが好き、やや好き」「体育の時間は楽しい、やや楽しい」と考える子どもの割合は高い値を維持しており、意識の高さが伺える。
- 体育の時間を除く1週間の総運動時間が60分未満の子どもの割合についての経年変化をみると**あまり変化が見られない**ことから、ほとんど運動をしない子どもに対する取組に課題がある。
- 朝食の欠食日がある子どもが**男子で3割、女子で2割程度**いる。また、ゲームの画面を見ている時間が長い子どもの割合は男子が全国平均より高いことから、望ましい生活習慣の定着を図る取組に課題がある。

改善の方向

- 「跳」の身体能力を「リズム能力（リズムにタイミングを合わせ、動きで表現する能力）」「バランス能力（バランスを保つ、姿勢を立て直す能力）」「連結能力（関節や筋肉の動きをタイミングよく同調させる能力）」の「調整力（体を巧みに動かす能力）」を育む取組を行う。

具体的には

- ①なわ跳びチャレンジの更なる充実
- ②体力テストの経年変化による体力・運動能力の向上を家庭でも確認できるようにし、日常生活における運動習慣の取組を促進する。
- ③冬季間の雪遊びの積極的な設定（雪での当て、雪上幅跳びなど）
- ④屋内における走・跳の運動の指導計画の作成を考慮（通年で取組可能な内容について検討していく）
- ⑤サタデパワーアップで外部人材の活用（12月26日（木）ダブルダッチを予定）

子どもの「走る、跳ぶ、投げる」という基礎的な運動能力を高めるための取組の一層の充実を図る。

- 運動が苦手な子どもも、意欲的に学ぶことができる指導を工夫することで、どの子どもも「運動することが楽しい」と実感できる授業の充実を図っていく。

- 「さっぽろっこ『学び』のススメ」の活用等により、家庭と連携して、健康三原則に基づく望ましい運動習慣、生活習慣の確立を図るための取組の充実を図っていく。

具体的には、

健康に関する指導の充実

- ①食育の推進～「食に関する指導の手引き」の活用促進
- ②健康の保持増進～心身の発達への理解、「性に関する指導の手引き」の活用促進